

8. 河道特性

常呂川は、その源を北海道常呂郡置戸町三国山(標高 1,541m)に発し山間部を流下し、置戸町勝山において、仁居常呂川を合わせ置戸町、訓子府町を経て、北見市内において無加川を合わせ、北見盆地を貫流し、狭窄部を流下し仁頃川を合わせ、常呂平野を経てオホーツク海に注ぐ、幹川流路延長 120km、流域面積 1,930km² の一級河川である。

1) 源流部 (三国山～置戸市街部)

三国山から置戸市街部に至る源流部は、河床勾配が約 1/30～1/150 の山間地を流れる渓流で、エゾマツ、トドマツ等の針葉樹林が広く分布し、フクドジョウ、エゾイワナ等が生息している。

2) 上流部 (置戸市街～無加川合流点)

置戸市街から無加川合流点に至る上流部は、河床勾配は約 1/150～1/300 であり、サケ、サクラマス、カラフトマス、シベリアヤツメ、ヤチウグイ等が生息し、サケの産卵床が数多く確認されている。鳥類ではオシドリ、オオジシギ等が生息している。河川周辺の山付林には、ハルニレ、ミズナラが比較的多くみられ、高水敷にはエゾノキヌヤナギを主体とするヤナギ群落や、クサヨシ、ヨシ等の群落が分布している。また、無加川合流点付近の中ノ島公園にはハルニレ大径木林があり、地域のシンボルになっている。

3) 中流部 (無加川合流点～仁頃川合流点)

無加川合流点から仁頃川合流点付近に至るまでの中流部は、北見市街地を貫流し、河床勾配は約 1/300～1/600 の川幅が広く礫の中州や寄り州がみられる瀬・淵の明瞭な区間である。シベリアヤツメ、エゾウグイ等が生息し、サケの産卵床が点在する。また、忠志橋にはイワツバメの集団生息地が見られる。河川空間は主に農地として利用され、広い畑地帯に調和した河川景観を形成している。北見市街に接するところでは香りゃんせ公園等の公園やグラウンドとして利用されている。

4) 下流部 (仁頃川合流点～河口)

仁頃川合流点付近から河口に至るまでの下流部は、河床勾配は約 1/1,400～1/5,000 と緩やかで、低水路が大きく蛇行しており、ワンドや瀬・淵等多様な環境がみられ、魚類等の良好な生息環境となっている。この区間上流は左右交互に山付き区間が現れる流れの緩やかな区間であり、所々に寄り州が見られるが、低水路は安定し、エゾウグイ等が生息している。発達したハルニレ林等が山付き区間の所々に見られる。河岸にはオオイタドリ、クサヨシ等の草本や、エゾノキヌヤナギ等の木本が繁茂している。高水敷は広く畑地に利用されている。区間下流の感潮域には、シラウオ等汽水域に生息する魚類の生息地になっている。河口左岸の砂丘地には、ハマニンクが小群落を形成している。

5) 河口部

河口部は蛇行が多く、人工池、河跡湖等の止水域も多く分布しているため、オジロワシ等の渡り鳥の中継地や、水鳥の集団分布地になっている。

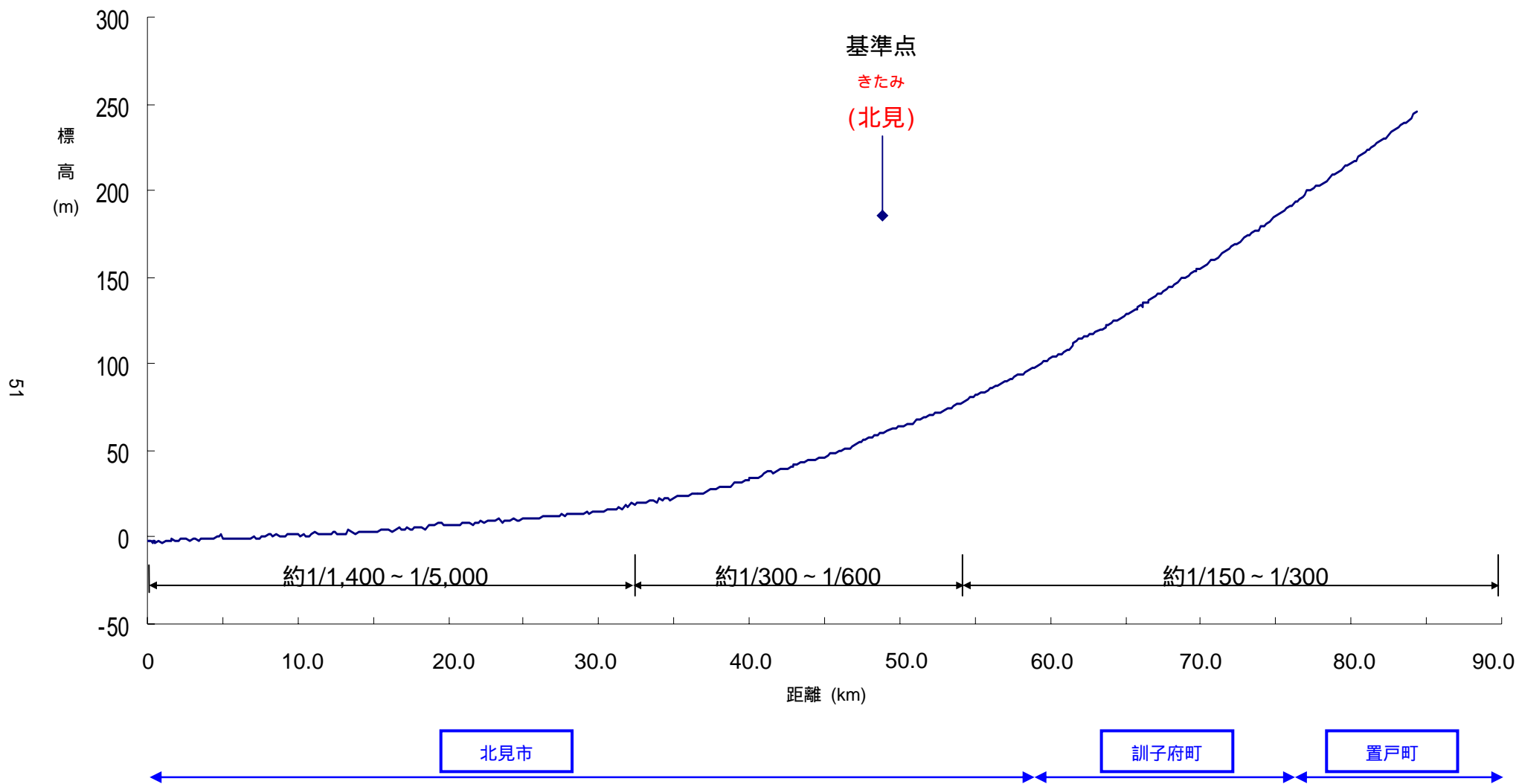


図 8-1 常呂川水系 常呂川 河床高縦断図